

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02310

研究課題名(和文) 高校普通科におけるキャリア教育の課題とキャリア志向型の教育モデルの構築

研究課題名(英文) Career education in general education of high school

研究代表者

大串 隆吉 (Ohgushi, Ryukichi)

東京都立大学・人文科学研究科・客員教授

研究者番号：70086932

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ドイツ生産学校については、以下の論文で取り上げてきた。「生産学校のデッサン一学校中退者・失業青年に職業訓練を」『人文学報』東京都立大学人文学部、2007。これらで生産学校の特徴とキャリア教育との関連も考察した。その後何回かドイツ・カッセル市の生産学校の調査を行った。またロストツク市などの生産学校も訪問した。その後、コロナ感染があったため、生産学校訪問は行わなかった。日本では、佐賀県のNPO法人スチューデント・サポート・フェイスの援助活動を調査した。このNPOは2003年7月5日設立し、10月23日NPO法人となり、学校、家庭に訪問し、アウトリーチに力を入れている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

不登校、引きこもりは社会的問題になっている。その解決と青少年の生活再建の課題と取り組みを考察したことに社会的意義がある。その取り組みの特徴は、生産活動・モノづくりの成功体験によって自己尊厳を取り戻すことによる。その体験と地域的な体験活動をくみあわせて、青少年が生きる目標、意義をとらえなおすことに社会的意義・学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：About the Produktionschule in Germany I reported in the Journal of Social Sciences and Humanities of Tokyo Metropolitan University No.381. The Thema is A Drawing of Produktionschule in Germany and Denmark.

In Japan I investigated the Student Support Face in Saga. This NPO helps youth and child of the refusal to attend school. In 2016 this NPO consulted with 9,590 persons and helper to their home and school 4,257 times. A common point of Japan and Germany is a necessity of the third territory except school and home.

研究分野：社会教育

キーワード：生産活動 モノづくり 不登校 Jugendhilfe

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本とドイツに青少年には、不登校、引きこもりが増大し社会的問題になっていたことにある。彼らは失業青年でもあったため、職業への意欲を育て、仕事を見つけることが、日本とドイツの共通課題になっていた。職業資格を重視するドイツにおいては、日本以上に生産と職業への意欲を育てることが重視されていて、それに適応する事業として生産学校がドイツでちゅうもくされるようになっていた。

生産学校はデンマークが発祥の地であったため、デンマークの生産学校にも調査に行ったが、継続的にはドイツの場合を調査した。

2. 研究の目的

青少年が、引きこもり、不登校を克服し、社会的復帰、人生および生活の再建を支援する取り組みの特徴を、日本とドイツの比較を通して明らかにする。また、生活再建のためには職業能力を身に付ける必要があるため、そのための支援の方法を明らかにする。生産学校を取り上げた理由は、ものづくりが青少年の働く意欲養成に積極的であるからである。

3. 研究の方法

実地を訪問し、事業者、支援者、青少年の活動の観察と、面接による聞き取りの調査を基本とした。特に、ドイツだけでなく、日本においても事業者・支援者と青少年がひとつのグループとして活動していることに注目し、事業者、支援者の問題意識と青少年の関心との関係を明らかにしようとした。

4. 研究成果

研究成果は、ドイツ生産学校については、以下の論文で取り上げてきた。「生産学校のデッサン学校中退者・失業青年に職業訓練を」『人文学報』東京都立大学人文学部、2007。これらで生産学校の特徴とキャリア教育との関連も考察した。すなわち、生産学校でのモノづくりの体験が、働く意欲を引き出し、職業への関心を広げていることに着目した。その後何回かドイツ・カッセル市の生産学校の調査を行った。またロストック市などの生産学校も訪問した。その際に、ドイツと日本の職業観特に資格に対する見方がちがうことが指摘され、それによる職業訓練・職業教育の位置づけに関する、日独の違いを明らかにすることが課題となった。

その後、コロナ感染の問題があったため、生産学校訪問は行われず、この課題の検討は未発である。

日本では、佐賀県武雄市にあるNPO法人スチューデント・サポート・フェイス(SPF)の引きこもり青年の社会復帰のための援助活動を調査した。このNPOは2003年7月5日設立し、10月23日NPO法人となり、『不登校、ひきこもりのための支援・相談機関ガイドブック』発刊し、支援・相談事業の提案、指針を作成した。そのとりくみは、佐賀県がかかえていた高校中退者、不登校問題の解決に示唆を与え、県としての取り組みの参考にされたが、総務庁もその活動に注目したといわれる。

大串はその活動に伴い、その特徴の分析をこころがけたが、残念ながら、コロナ感染がおり、その後の調査は行われていない。ただし、次の点が指摘されていた。家庭の問題が大きいのではないかということである。したがって、ひとり親家庭や、孤児への取り組みが必要なことが指摘された。すなわち、青少年だけでなく、家族の問題にきづき、青少年とともにその課題解決の支援をする必要があることである。とくにひとり親自身が自立できる支援の必要性が議論された。この気づきは、高齢者問題にも発展した。すなわち、支援者が家庭訪問する中で、家庭で青少年とともに暮らす高齢者の存在に気づいたことがきっかけである。そこで、このNPOでは青少年だけでなく、青少年とともに暮らす家族全体の支援にとりくむことになる。

したがって、ここからは支援者の能力が再検討されることになった。それまでは、主に青少年援助の能力であったが、高齢者や母親などの女性を支援する能力も求められるようになった。青少年支援は世代を超えた支援に発展しつつあるが、このことは、事業者に新たな課題をなげかけることになる。すなわち、研修や養成のカリキュラムに、高齢者支援や女性支援のテーマをつくることである。したがって、支援者には高齢者支援者だけでなく、女性支援者、介護や看護の専門家の支援を求めることになる。また、医療や福祉行政の専門家の協力も必要となった。したがって、異種の職業によるグループが必要となったのである。

こうして若者・青少年の支援から、母親、高齢者の支援も取り込んだ、青少年支援に発展しつつある。この傾向はドイツではどうなのか。同じような課題が生まれているのではないかと思われる。ある生産学校では、若者だけでなく、中年女性の活動参加も見られるようである。このことは新たな調査が必要であろう

以上の問題は、社会教育とどのような関係にあるのだろうか。ドイツの社会教育はゾチアール・ペダゴギーク(Sozialpaedagogik)と呼ばれている。それは、伝統的に青少年問題への取り組みが中心だったし、現在もその伝統は受け継がれていて、その専門家であり、実践家は社会教育士

である。したがって、専門的職員の社会教育士の仕事は青少年教育が中心である。

それに対し日本の社会教育の場合、第二次大戦後の社会教育は青年や女性をよく対象にしていた。青年団や子供会、婦人会が活発な頃である。青年団は社会教育が担当していたから、社会教育主事は青年団の相談に乗っていた。しかし、青年団が弱体化すると、青少年の教育は社会教育行政より、一般行政として青少年健全育成として取り組まれている。こうした時代の変化が社会教育に何を投げかけるのだろうか。社会教育士の誕生とともに考えるべきことは多い。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 大串隆吉	4. 巻 65
2. 論文標題 コロナ感染症と社会教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 3、7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児美川孝一郎	4. 巻 52
2. 論文標題 ウィズ/ポストコロナ時代の高校教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 22、25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 児美川孝一郎	4. 巻 75
2. 論文標題 GIGAスクールというディストピア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 41、53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿部英之助	4. 巻 86
2. 論文標題 農業高校のビジネス人材育成の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 75、84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 降旗 信一	4. 巻 4
2. 論文標題 教職「教育課程論」における「社会に開かれた教育課程」学習の到達点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農学、環境系の教育実践研究	6. 最初と最後の頁 12, 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 隆吉	4. 巻 760号
2. 論文標題 労働者教育の成り立ちとあゆみ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 48 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田 政男	4. 巻 767号
2. 論文標題 生きることと学ぶこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 3 ~ 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児美川 孝一郎	4. 巻 113号
2. 論文標題 『2020年教育改革』を機にキャリア教育の新時代を	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 じっきょう商業教育資料	6. 最初と最後の頁 6 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串隆吉	4. 巻 515 - 3
2. 論文標題 若者支援職員の専門性調査 - 佐賀県における若者支援活動の場合（二次報告）職親活動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 21, 38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 児美川孝一郎	4. 巻 869
2. 論文標題 格差社会の中のキャリア教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 59, 66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児美川孝一郎	4. 巻 57
2. 論文標題 キャリア教育の視点から見た新しい学習指導要領	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理歴史・公民研究	6. 最初と最後の頁 5, 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部英之助	4. 巻 70
2. 論文標題 高校と大学をいかにつなげるか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 わかやまのこども教育	6. 最初と最後の頁 2, 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部英之助、依田理恵子	4. 巻 2 - 3
2. 論文標題 高大接続研究センターの活動2017年度	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高大接続研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 118、156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 児美川 孝一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 泉文堂	5. 総ページ数 209
3. 書名 高校教育の新しいかたち	

1. 著者名 降旗信一・金子雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 237
3. 書名 社会教育における防災教育の展開	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	降旗 信一 (Furihata Shinichi) (00452946)	東京農工大学・(連合)農学研究科(研究院)・教授 (12605)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 英之助 (Abe Einosuke) (10408982)	大東文化大学・社会学部・准教授 (32636)	
研究分担者	児美川 孝一郎 (Komikawa Koichirou) (50287835)	法政大学・キャリアデザイン学部・教授 (32675)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関